

実践2025 正誤表

巻	書籍頁	アプリ	項目	誤	正	訂正日	参考: 2024	
							書籍頁	アプリ
1.必修	358	訂正あり	113B7 解説	×c: RCI(Root Caries Index)は根面齲蝕指数である。未処置の歯根面齲蝕のある歯肉退縮部位数と充填された歯根面のある歯肉退縮部位数の差を、同値に健全な歯根面のある歯肉退縮部位数を足した値で除して求める。根面齲蝕と歯周疾患の関連性を表す。	×c: RCI(Root Caries Index)は根面齲蝕指数である。未処置の歯根面齲蝕のある歯肉退縮部位数と充填された歯根面のある歯肉退縮部位数の和を、同値に健全な歯根面のある歯肉退縮部位数を足した値で除して求める。根面齲蝕と歯周疾患の関連性を表す。	2024/6/20	359	訂正あり
2.基礎 上	97	—	97A34 ここ大事	小唾液腺表 名称 / 分泌物の性状 / 存在部位 臼歯腺・臼後腺 / 混合腺 / 上顎大臼歯後方、臼後三角粘膜	小唾液腺表 名称 / 分泌物の性状 / 存在部位 臼歯腺 / 混合腺 / 上顎大臼歯後方の頬粘膜(耳下腺乳頭より後方) 臼後腺 / 粘液腺 / 臼後三角部の粘膜 ※成書によって、臼歯腺と臼後腺を同一のものとして扱っていたり、後舌腺を粘液腺優位の混合腺としていたりなどの記載の差異は見受けられる。	2024/11/19	97	—
3.基礎 下	215	訂正あり	110C106 解説	×a, d, e, Ob, c: コンポジットレジンとはファイラータイプによりさまざまな分類ができる。マイクロファイラー型はコロイダルシリカ(0.02~0.04 μm)がファイラーとして、コンポジットレジン全体の容積の50~60%を占める。ハイブリッド型は石英やガラス(0.1~10 μm)、コロイダルシリカに加えて超微粒子シリカ(0.04 μm)がファイラーとして、コンポジットレジン全体の容積の70~80%以上を占める。ファイラー含有率はマイクロファイラー型と比べてハイブリッド型のほうが高いため、弾性係数や引張強さなどの機械的性質に優れ、吸水性や重合収縮率、熱膨張係数は小さいが研磨性には劣る。	×a, d, e, Ob, c: コンポジットレジンとはファイラータイプによりさまざまな分類ができる。マイクロファイラー型はコロイダルシリカ(0.02~0.04 μm)を無機ファイラーとするが、そのまま含有率を高めようとすると実用性が得られないため、有機複合ファイラーを利用してコンポジットレジン全体の容積の50~60%の含有率に高められている。ハイブリッド型は石英やガラス(0.1~10 μm)、コロイダルシリカ、有機複合ファイラーに加えてシリカやジルコニアによるナノファイラー(5~20nm)といったさまざまな粒径のものがファイラーとして配合され(ナノハイブリッド型)、コンポジットレジン全体の容積の70~80%以上の含有率に高められている。ファイラー含有率はマイクロファイラー型と比べてハイブリッド型のほうが高いため、弾性係数や引張強さなどの機械的性質に優れ、吸水性や重合収縮率、熱膨張係数は小さいが研磨性には劣る。	2024/5/23	213	訂正あり
5.保存修復学 歯内療法学	129	—	101B87 解き方	コンポジットレジンの重合収縮で遊離エナメル質がエナメル小柱が引き剥がされることにより、窩洞辺縁に白線が認められる状態をホワイトマーキングとよぶ。	コンポジットレジンの重合収縮で遊離エナメル質内のエナメル小柱が引き剥がされることにより、窩洞辺縁に白線が認められる状態をホワイトマーキングとよぶ。	2024/4/10	—	—
7.全部床義歯学 部分床義歯学	151	訂正あり	104B19 解き方	画像所見 義歯: ①~、②左側頬側咬頭の接触が強い	画像所見 義歯: ①~、②右側頬側咬頭の接触が強い	2025/3/5	154	訂正あり
9.小児歯科学	47	—	110A130 ここ大事	フラッディング法: 自閉スペクトラム症や強迫性障害などの患児に対して、最初から最大級の恐怖に直面させ、心配しているようなことは実際には起こらず安心だということを学習させる方法	フラッディング法: (削除)最初から最大級の恐怖に直面させ、心配しているようなことは実際には起こらず安心だということを学習させる方法	2024/6/7	45	—
	153	—	111D46 解説	×a~c, e, Od: ~仮封には、最終修復を終えるまでに脱落や内部の汚染が生じないように、強固であるガラスアイオノマーセメントやカルボキシレートセメントがよく用いられる。~	×a~c, e, Od: ~仮封には、最終修復を終えるまでに脱落や内部の汚染が生じないように、強固であるガラスアイオノマーセメント(削除)がよく用いられる。~	2024/4/5	156	訂正あり
10.歯科矯正学	332	訂正あり	112C85 解説	×a: 過蓋咬合は認められないため咬合挙上は必要ない。また、咬合挙上板はマルチブラケット装置と併用することはできない。	×a: 過蓋咬合は認められないため咬合挙上は必要ない。(削除)	2024/5/28	335	訂正あり
	228	訂正あり	112B78 解説	Od: 歯性上顎洞炎によって上顎洞粘膜が肥厚すると~上顎洞瘻孔閉鎖の判断基準となる。	Od, ×e: 歯性上顎洞炎によって上顎洞粘膜が肥厚すると~上顎洞瘻孔閉鎖の判断基準となる。	2025/1/27	—	—
11.口腔外科学 上	299	訂正あり	105D31 解説	×b: 腐骨形成や骨吸収、骨効果など、骨髄炎を疑わせる像はみられない。また、主訴のような症状を呈することは考えにくい。	×b: 腐骨形成や骨吸収、骨硬化など、骨髄炎を疑わせる像はみられない。また、主訴のような症状を呈することは考えにくい。	2024/9/9	—	—
13.歯科麻酔学 歯科放射線学	210	—	114C54 ここ大事	おもな輸血用製剤 赤血球液: 採血後21日間	おもな輸血用製剤 赤血球液: 採血後28日間	2024/6/12	205	—

—: 訂正内容該当なし(該当の記述なし、または修正済みなど)

※2025年2月以降の訂正情報は、「実践2026」正誤表に移行いたします。あわせてご参照ください。